

2025年10月実績概要（メモ）

（2025.11.20）

原料エチレン等の増産に沿い、総じて、誘導品類の生産でも伸長がみられる。

1. 生産動向

イ) エチレン 452,300トン

前月比 +5.1% (+21,800トン)
 前年同月比 +9.1% (+37,900トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	+3.3%	-
定修要因等	+3.6%	+10.9%
能力増減	-	-
稼働率変動	▲1.8%	▲1.8%
生産増減率	+5.1%	+9.1%

稼働プラントの実質稼働率試算：前月77.5%* → 当月76.2% ← 前年同月77.4%

定修プラント：前月なし → 当月なし ← 前年同月1社1プラント

2025年1～10月累計生産量 4,230.9千トン 前年同期比 +3.5%

ロ) 主な石油化学製品

前月比は、日数の増加とともに定修規模差等もあり、LDPE、PP、塩ビ樹脂、EO、EG、SBR、キシレンなどの11品目がプラス。PS、MMAモノマー、BRなどの6品目はマイナスとなった。

前年比では、定修規模差や稼働率要因等から、LDPE、PP、PS、SM、塩ビモノマー、EG、SBRなどの13品目がプラス。HDPE、MMAモノマー、トルエンなどの4品目はマイナスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況（LDPE、HDPE、PP、PS）

イ) 生産

前月比は、日数増加とともに稼働率要因も加わり、LDPE、HDPE、PPの3樹脂はプラスとなった。

PSは定修規模差からマイナスとなった。

前年比は、LDPE、PP、PSは定修規模差を主因としてプラス、HDPEは定修規模差からマイナスとなった。

ロ) 国内出荷

消費のマインドは、暮らし向きの面を中心に前月に対して持ち直しが見られている。国内の生産活動は、夏場にやや弱含む時期も見られたが、9月時点で増加に転じ、10月の予測でも電子部品・デバイス関連のほか輸送機械等で増加が見込まれ、生産のマインドとしても強気の見方が多くなっている。

汎用樹脂の出荷は、前月比は、ユーザー側の稼働日数の増加影響もあり、LDPE、PP、PS等の4樹脂揃ってプラスとなった。前年比では、HDPEのみはマイナスだが、他の3樹脂はプラスとなった。

分野別の出荷状況では、フィルム等の包装材分野では、LDPE、PSは前年を上回る出荷となったが、HDPE、PPは前年割れとなった。包材以外の出荷分野では、LDPEの加工紙分野、HDPEの中空成形分野、PPの射出成形分野が前年の出荷を上回った。PSは包材分野の増加に加えて電機・工業用分野、雑貨・産業用分野、FS用ともに前年を上回る出荷となった。

ハ) 輸出

アジア諸国の連休明け後も供給の潤沢感がまさり、市場は様子見の状態が続いている。このため、輸出は、前月比でLDPE、PPはプラスとなったが、HDPE、PSはマイナス。前年比では、前月に続いてLDPE、HDPE、PP、PSの4樹脂ともにマイナスが継続している。

ニ) 在庫

在庫量は、前月に対して、LDPE、HDPE、PPは増加、PSのみは減少した。在庫率(季節調整済)は、LDPEは横這い、HDPE、PPは僅かながらの上昇。PSは低下した。在庫水準としては、LDPEは高め、HDPEは極めて高めが継続、PP、PSはほぼ適正範囲に留まっている。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率 (単位:ヶ月)	
		9月末	10月末
LDPE	+ 6,400	3.5	3.5
HDPE	+ 3,800	3.9	4.0
P P	+ 18,200	3.0	3.1
P S	▲ 5,400	2.1	1.9

前月からの修正を*で付記

以上